

「田皆小学校の田皆ヤッコ伝承活動の取組」

1 学校名

知名町立田皆小学校

2 学年・人数

全校児童（計29人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年7月～8月，ラジオ体操の後（田皆コミュニティセンター）

令和元年9月（田皆小学校運動場・体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和元年9月29日（日） 田皆小学校・田皆字合同秋季大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

(1) 名称

田皆ヤッコ（たみなやっこ）

(2) 由来

慶長14（1609）年の薩摩藩の琉球侵攻以降，鹿児島に赴いた島民が，大隅，都城地方の棒踊り奴踊りを伝えたことが始まりである。

ヤッコとは，勇ましい男性という意味で，江戸時代の初期奴行列と，琉球系統の歌「ウシデーク，エイサー」等が融合した独創的な踊りとなっている。

薩摩藩時代の踊りは，年貢の替わりで，沖永良部は米が不足していたので，踊りを踊って薩摩の役人を慰めていた。また，先人達は踊りに励み，互いに慰め励まし合って苦しく貧しい時代を生き抜いてきた。

(3) 構成等

3部構成になっていて，1番から3番まで続けて踊る。左手を腰に当てて，右手と右足を同時に前に出して入場する動作が印象的である。

紋付きにたすきをかけ，しりからげにし，頭には白鉢巻き，帯は角帯を用いて前結びにする。（近年は，帯を挟み込んでいる。）

股引をつけ，脚には脚絆を巻き，素足で踊る。（足袋をはくときもある。）

右手にフバガサを持ち，その笠を水平に動かしたり，押し出したりして笠を振り回し，威勢よく踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年，田皆小学校・田皆字合同秋季大運動会では，全児童・職員・保護者地域住民が参加して，田皆ヤッコを披露することが伝統となっている。また，島唄・島ムニ大会で劇風に発表することもあり，地域全体で保存伝承に取り組む体制ができています。

運動会に向けて，夏休みのラジオ体操の後，ヤッコ保存会の方が手本を見せながら，取りの練習をしている。また，運動会当日は，地域のジュウテ（三線の演奏者）や太鼓の方による生演奏で田皆ヤッコを披露している。

昨年度の島唄・島ムニ大会では，5・6年生が踊りの劇をし，最後は，3・4年生の歌に合わせて，他の学年が元気いっぱい田皆ヤッコを踊り，会場から大きな拍手をいただいた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間に、中・高学年は「受けつごう島の文化」を設定し、沖永良部ならではの独特な文化・伝統芸能（島唄・三線）について関心を持ち、進んで調べたり継承者とのふれあいを通して文化に触れたりしている。

7 取組の様子



【田皆小学校・田皆字合同秋季大運動会】



【島唄・島ムニ大会】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【6年生児童】

毎年運動会で踊っている田皆ヤッコ、今年は小学校最後の運動会だったので、いつも以上に一生懸命踊ることができた。

【保存会から】

田皆ヤッコは、他の字にない男女混合の踊りなので、このスタイルで伝承してほしい。また、三線や太鼓に合わせて踊る今の活動を大事にし、字の行事に参加してさらに盛り上げていけたらと思う。

子どもたちがヤッコ踊りの歴史を学習する場も大事な教育の一つだと思う。

【教職員】

保存会や愛好会の方の勇壮な踊りに少しでも近づきたいという気持ちで踊っている。三線や太鼓の生演奏で、児童・保護者・教職員・地域住民が一带となって踊る田皆ヤッコがこれからも伝承されることを心から強く願っている。

また、保存会の方が作成してくださった田皆の伝承芸能の冊子等を活用して、今後も田皆ヤッコの歴史や歌詞の意味等を学習する機会を作っていきたい。